

水墨・岩彩・金地屏風（二曲一隻）175 × 175 cm 2026



《観照》の中で

東山千隼は、
日本の屏風絵における空間意識を継承しながら、

墨、岩彩、金地の関係を、
静かに変化し続ける
視覚の層として扱っている。

《枝の間》では、

枝の形態が、
地層や侵食の痕跡にも似た
堆積感を帯び、

墨は金地の表面に、
滲みと偏りを残している。

光。
距離。
反射。

そのわずかな変化によって、
画面の見え方は、
静かに移ろい続ける。

东山千隼延续了日本屏风绘画中的
空间意识，

并将水墨、岩彩与金地之间的关系，
转化为一种持续变化的视觉层次。

《枝の間》中，

枝干呈现出近似地层与侵蚀痕迹般的
堆积状态，

墨色在金地之间缓慢沉积、游移。

随着光线、距离
与表面反射的变化，

观看也在其中
持续变化。

Artist | 東山千隼 ひがしやまちはや



1963 -
京都在住

日本、中国、シンガポールを往来しながら、
長年にわたり制作と発表を続ける。

これまで日本、中国、香港、シンガポールなど各地で多数の個展を開催。
作品は国際的なコレクションおよび
オークション市場でも紹介されている。

近年は、
東洋的な空間意識と庭園美学への関心を軸に、

屏風という形式を通して、
光、余白、距離、反射によって
変化し続ける視覚構造を探求している。

金地と墨の関係から生まれる揺らぎ。
空間の連続性。
時間の滞留感。

東山千隼の作品には、
見ることが静かに生成していく
その過程そのものが保たれている。

长期往返于日本、中国与新加坡之间，
持续进行创作与展览活动。

曾于日本、中国、香港及新加坡等地举办多次个展，
作品亦被国际收藏与拍卖体系所关注。

近年持续围绕东方空间意识
与庭园美学展开研究，

并通过屏风这一形式，
探索一种随着光线、距离与反射
持续变化的观看结构。

金地与水墨之间生成的游移感。
空间的连续性。
时间缓慢停留般的感知。

観照 KANSHŌ — 般若心経と現代芸術

2026年5月26日 — 5月31日

kokoka 京都市国際交流会館

Reino-e Gallery Kyoto

www.reino-e.jp info@reino-e.jp